



# 「会計情報の活用」 学習指導案

## ●単元の指導計画

### ①単元名

高等学校公民科「公共」 B「自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち」

(3)主として経済に関わる事項「**職業選択**」

### ②単元のねらい

- 社会の急速な変化が職業選択に及ぼす影響を理解する。
- 職業選択において企業の会計情報を活用することの意義を理解する。
- 働くことや職業選択の意義を考え、表現する。

### ③単元の指導計画

時限	学習内容
第1時	技術革新や産業構造の変化など、社会の急速な変化が職業選択に及ぼす影響を理解する
第2時	働くことや職業選択の意義を考え、表現する
第3時(本時)	<b>企業についての情報を収集し活用することが、職業選択を行う際の一つの指標になることを理解する</b>

### ●本時のねらい

- 企業の会計情報である損益計算書や貸借対照表の概念や読み取り方を理解し、企業についての情報を集められるようにする。
- 職業選択において、企業の会計情報を活用することの意義を理解する。

### ●評価規準

- 損益計算書や貸借対照表の概念や読み取り方を理解している。
- 職業選択において、企業の会計情報を活用することの意義を理解している。

### ●本時の流れ

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入(5分)	本時の学習内容について見通しを立てる	<b>■「本時の学習内容について理解する」</b> • 本時の学習内容を確認し、学習の見通しを立てる	• これまでの学習を振り返りながら、職業選択をする際のポイントについて学習することを伝える

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
展 開 ① (10分)	職業を選択する時のポイントを考える	<p>【展開①】</p> <p>■「職業を選択する時のポイントを考える」</p> <p>●発問：「将来、自分が職業を選択する時の基準は？」</p> <p>(解答例：「やりがい」「自分の得意なこと」「給料」「正社員」「労働環境」「福利厚生」「企業の知名度」「企業の規模」「企業の業績」「企業統治の信頼性」など)</p> <p>⇒グループで発表し、クラス全体でも共有する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自由に考え、多くの解答が出るように促す</li> <li>「自分自身のこと」「業種・職種」「就業形態」「雇用形態」「どの企業で働くか」など、解答を教員が整理する</li> <li>「ブラック企業」などの解答は「企業統治の信頼性」と関連づける</li> <li>起業し、自ら経営する選択があることにも触れる</li> <li>特別活動においてインターンシップを実施する際の、実習先企業についての情報を十分に集めるなどの事前学習との連携が可能である</li> </ul>
	企業を知る情報の一つとして、企業会計があることを理解する	<p>【展開②】</p> <p>■「企業についての情報の集め方を学ぶ」</p> <p>●発問：「職業選択をする時に企業の情報を知る手段は？」</p> <p>(解答例：「求人票」「採用情報」「CM」「広告」「企業のHP」など)</p> <p>●発問：「企業の業績を知る情報は？」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業の業績を知る情報の一つとして、「企業の会計情報」があることを理解する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業を知る手段が限られていることや、業績などの情報は私たちに届きにくく、企業と私たちの間には情報の非対称性が存在することに気づかせる</li> </ul>
展 開 ② (15分)		<p style="text-align: center;"><b>主発問：「職業選択において企業の会計情報を活用することの意義は何か」</b></p>	
		<p>【教材①】 企業活動と企業会計</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>空欄①～④を埋めながら、企業活動と企業会計の関係性を理解する</li> <li>空欄⑤～⑨を教員の説明に沿って穴埋めし、理解を深める</li> </ul>	<p>解説</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>企業は、資金の調達や運用、企業活動の成果を、会計情報である貸借対照表や損益計算書として報告している</li> <li>企業会計とは、企業活動を金額で記録し、報告するための技術である</li> <li>企業の会計情報は、株主などが企業に資金提供をする直接金融と銀行における間接金融、いずれの場合でも活用されている</li> <li>企業会計は、経済主体の一つである企業の説明責任(アカウンタビリティ)を果たす役割を担っている</li> <li>経営者がアカウンタビリティを果たすことによって、企業の社会的信頼が確保され、健全な投資が行われることで企業活動が活性化し、経済の活性化につながる</li> </ul> <p>※金融の学習で取り上げることでもできる</p>

	学習内容	学習活動	指導上の留意点
展開② (15分)		<b>教材②</b> 企業会計は、何を表すのか <ul style="list-style-type: none"> <li>空欄⑩～⑬を埋めながら、企業会計が何を表すのか理解する</li> </ul>	<b>解説</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>損益計算書は、収益から費用を差し引くことで、1年間の経営成績を表す</li> <li>貸借対照表は、ある時点の資金の調達状況と資金の運用状況を表す</li> <li>貸借対照表の調達部分である負債は返済が必要で、純資産は返済が不要</li> <li>貸借対照表に示される純資産の大きさは、一般に企業の健全性を表している</li> </ul> ※一国の一定期間内の経済活動を示す指標の代表例である GDP と対照させて説明することもできる
展開③ (15分)	職業選択に企業会計を活用することの意義を理解する	<b>【展開③】</b> <b>■「企業会計を職業選択に活用する」</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>職業選択をする上でも、企業の会計情報が一つの指標となることを理解する</li> </ul> <b>●発問：「二つの企業の特徴を見つけよう」</b> <b>教材③</b> 二つの企業の会計情報 <ul style="list-style-type: none"> <li>A社、B社の会計情報を見比べ、異なる点を見つけ出し、それぞれの企業の特徴を読み取る</li> <li>「求職者」の立場から、二つの企業の特徴を考え、どちらの企業に就職したいかを理由とともに考える</li> </ul> (解答例：「広告宣伝費が多いことから、売上高も上がりそうで、先が楽しみな会社なのでA社に就職したい」「純資産が多く負債に依存しすぎていないことから、会社の財務が安定しているうのでB社に就職したい」など) ⇒グループで発表し、クラス全体でも共有する	<ul style="list-style-type: none"> <li>求職者である私たちと企業の間情報の非対称性が存在することから、企業会計が職業選択の際にも活用できることに気づかせる</li> <li>A社とB社は同業種であり、従業員数や生産している製品の数など、条件は全て同様とする</li> <li>支払利息と借入金の関係や各社の負債と純資産の違いなどに着目させる</li> </ul> <b>解説</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>収益や利益が同じであっても、企業によって費用の内訳や、負債と純資産の割合などに違いがある</li> </ul> <特徴の例> <ul style="list-style-type: none"> <li>A社：人件費や広告宣伝費が多く、また負債が多い</li> <li>B社：人件費や広告宣伝費が少なく、また負債が少ない</li> </ul> ※損益計算書と貸借対照表の金額の単位は、円単位、千円単位、百万円単位の表示があり、企業の規模により異なる単位が採用されている
まとめ (5分)	本時のまとめ	<b>■振り返り：職業選択において「企業の会計情報」を活用することの意義とは</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>限られた情報の中、企業の会計情報は職業選択をする上でも一つの指標となる</li> </ul>	